

上武大学
経営情報学部紀要

第 4 号

〈論文〉

- PODに見られる英単語発音の変化 (14)…………… 鶴澤伸雄 (1)
- フランス語時制の研究
——アспектを中心に——…………… 白井盛利 (15)
- 瀬戸内海におけるカブトガニの激減とその原因
…………… 伊藤富夫・杉田博昭・関口晃一 (29)
- 『死にいたる病』冒頭部分の一解釈…………… 田村恭一 (47)
- 中小企業の企業規模と存立態様の関連に関する考察
…………… 竹本次郎 (61)
- 企業システムにおける内部と外部…………… 中村雄司 (83)
- 社会科学形態論の構成 (2)…………… 松崎昇 (107)
- 『日本神仙記』という書について (下)
——『本朝神仙伝』との係わり——…………… 野口博久 (142)
- 1990年度研究活動状況…………… (143)
- 紀要編集委員会規約及び『紀要』投稿・執筆要綱…………… (153)
-

1991年3月

上武大学経営情報学部

「紀要」編集委員会規約

第1条 「名称および事務局」

本会は、上武大学経営情報学部「紀要」編集委員会と称し、事務局を上武大学附属図書館経営情報学部分館内に置く。

第2条 「目的」

本会は、上武大学経営情報学部に所属する教員の、学術研究の推進と、学術研究を通じて相互の交流を図ることを目的とする。

第3条 「事業」

本会は、前条の目的を達成するために、経営情報学部長を発行人として、「上武大学経営情報学部紀要」(Bulletin of the Department of Management and Information Science, Jobu University)の編集・発行を行う。

「紀要」は、原則として年2回発行する。

第4条 「組織」

本会は、上武大学経営情報学部図書委員で構成し、図書委員長が本会の委員長を兼任する。

第5条 「活動」

本会は、次の活動を行う。

1. 「紀要」の原稿募集
2. 「紀要」の編集
3. 「紀要」の配布および交換
4. その他

第6条 「査読」

本会は、投稿原稿を、本会が依頼した査読者の査読を経て掲載する。

第7条 「事務委嘱」

本会は、業務を円滑に遂行するため、庶務・会計の事務を分館司書に委嘱することができる。

- 〔付則〕
1. 本規約は、平成2年9月3日より施行する。
 2. 「紀要」は第1号より始める。
 3. 「紀要」の投稿・執筆要綱は別に定める。

「紀要」投稿・執筆要綱

1. 投稿者は、次に掲げる者とする。
 - (1) 上武大学専任教員
 - (2) 「紀要」編集委員会の認めた者
2. 投稿原稿は、査読を経て掲載する。
3. 募集原稿は、論文・研究ノート・調査資料・翻訳・書評などである（これらの区別を明確に表示する）。
4. 原稿は、和文または欧文とし、完成原稿を一部提出する。
5. 原稿の枚数は、原則として自由であるが、編集上支障がある場合は、編集委員会の決定に従う。
6. 「紀要」の体裁は、B5版、横書き本文41字×33行（縦書きは、縦28字×23行・2段組み）である。
7. 原稿には表紙を付し、論文・研究ノート等の区別、題名（和文には欧文題名、欧文には和文題名を付記する）、著者名（和文にはローマ字著者名を、欧文には漢字著者名を付記する）を明記する。
8. 投稿者は、次の表記法に留意して執筆する。
 - (1) 横書き200字または400字詰め原稿用紙を用いることを原則とする。ただし研究分野により縦書きが必要な場合はそれを尊重する。
 - (2) 原稿はすべて筆記または印字されたものとする。
 - (3) 楷書・新仮名使い・新字体使用を原則とする。（ただし、固有名詞・引用文は例外とする）
 - (4) 句読点はカンマ（，）とマル（。）を用い、符号、・「」『』（）～等は1字分とする。
 - (5) 傍点は当該文字の上部に打つ。
 - (6) 欧文は、本文・注記ともダブル・スペースで仕上げる。
 - (7) 数字は、原則として、アラビア数字を用い（ただし、概数・化合物の名称・熟語・成句・固有名詞・数の意味が全くないもの等は和数字を用いる）、アラビア数字が2字以上続く場合は、数字2字で原稿用紙1字分とする。
桁数が多く兆・億・万などの単語を入れたほうが良い場合は、〔例6〕のように記入する。（この際は、位取りカンマを入れない）。
〔例1〕 1つ、1点、1人当たり10g、第2に、第2次世界大戦、前2者、2通り、4捨5入、5・15事件、19—20世紀、3・4日

〔例2〕 数十日間，数百キログラム，百数十ページ，何千人

〔例3〕 一酸化炭素，四三酸化鉄

〔例4〕 第1四半世紀，第2四半期

〔例5〕 一定，均一，一般，一義的，一足跳び，一部分，同一視，三途の川，
十分条件，八百屋，二百十日

〔例6〕 38億8823万人，7万6000人

- (8) 図・表は，原則として別紙に描き，通し番号・題目を付けて，本文中の挿入箇所を明確に指示する。（正確を期するため，図書館常備の紀要専用割り付け用紙に，印刷時の位置とその大きさを指定する）

図・表の換算率——刷り上がり6cm四方の図・表の場合，本文の18字×10行に
に相当する。

特に正確を期する図は，グラフ用紙に作図し原図を提出する。

- (9) 注（引用文献を含む）は，原則として別にまとめて列記し，本文中の当該箇所の右肩に(1) (2)……と通し番号をうつ。（注記においても原稿用紙の1コマには，1字以上書き入れない。ただし，欧文は例外とする）

- (10) 文献の表記は，原則として次の要領で行い，本文中に引用する場合もそれに倣う。ただし，研究分野によって慣例のある場合は，それに従ってよい。

①単行本：著者（編者）名，書籍名，発行地，発行所名，発行年，ページ

翻訳本：著者（編者）名，書籍名，訳者名，発行所名，発行地，発行年，ページ

論文：著者名，論文名，雑誌（収録書物）名，巻数，号数，発行年月，ページ

②書籍名・雑誌名が日本語・中国語等の場合は『』で，欧語の場合はイタリック（イタリック指示は該当箇所に赤でアンダーラインを付す）で，イタリック活字のない場合（例・ロシア語等）は《》で表示する。

③論文名が日本語・中国語等の場合は「」で，欧語の場合は“ ”で囲む。

9. 校正は3校を限度とし，印刷上の誤りや不備の訂正を主眼とし，原稿の改訂は避ける。

10. 掲載後，執筆者に抜刷を100部配布する。（超過分は，執筆者負担となる）

執筆者紹介 (論文掲載順)

鵜澤 伸雄 (英語)	田村 恭一 (哲学)
臼井 盛利 (フランス語)	竹本次郎 (中小企業経営論)
伊藤 富夫 (生物学) 静岡大学教育学部	中村 雄司 (企業論)
杉田 博昭 (生物学) 筑波大学生物科学系	松崎 昇 (経済学原論)
関口 晃一 (生物学)	野口 博久 (文学)

編集委員 (50音順)

新井 重三	清水 幸正	野口 博久
鵜澤 伸雄	関口 晃一	宮野 祥雄
押村 征二郎	谷崎 敏昭	若松 隆義
小野沢 隆司	田村 恭一	

上武大学経営情報学部紀要

第4号

1991年3月20日 印刷
1991年3月31日 発行

Printed in Japan

発行人	岡本 敬二
発行所	上武大学経営情報学部 〒370-13 群馬県多野郡新町270 TEL. 0274-42-2828
印刷	学校法人学文館印刷課 群馬県高崎市片岡町1-15-19 TEL. 0273-27-9192

**BULLETIN OF THE DEPARTMENT OF
MANAGEMENT AND INFORMATION SCIENCE
JÔBU UNIVERSITY**

No. 4

March 1991

Contents

- Some Changes in Pronunciation of English Words
Seen in the *POD* (14)..... Nobuo Uzawa (1)
- De l'aspect français.....Moritoshi Usui (15)
- A. Phenomenal Decrease of the Horseshoe Crabs in the Inland
Sea of Japan and its Causes.
..... Tomio Itow, Hiroaki Sugita and Koichi Sekiguchi (29)
- Eine Auslegung des Anfangs von Kierkegaards
»Krankheit zum tode«.....Kyoichi Tamura (47)
- It's Consideration of the Relation Business scale and Form of
Existence In Smaller Enterprises.....Jiro Takemoto (61)
- Inside and Outside in Firm System.....Yuji Nakamura (83)
- Constitution of the Theory of Form of Social
Science (2)Noboru Matsuzaki (107)
- On a Book Called "Nihon-Shinsenki" (2)
—Its Relationship with "Honchō-Shinsenden"—·· Hirohisa Noguchi (142)
-

Published by

**The Department of Management and Information
Science, Jôbu University**